

左岸地区の『復興まちづくりのイメージ案』について ～第3回懇談会の意見概要②～

黄色網掛け箇所が第3回懇談会の参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

左岸地区 復興まちづくりのイメージ(案)

【避難路の整備】【安全な避難場所の確保】

- ・避難の時期、ルート、避難場所、避難場所の運営面等を考慮して、避難方法と整備内容の具体化が必要。

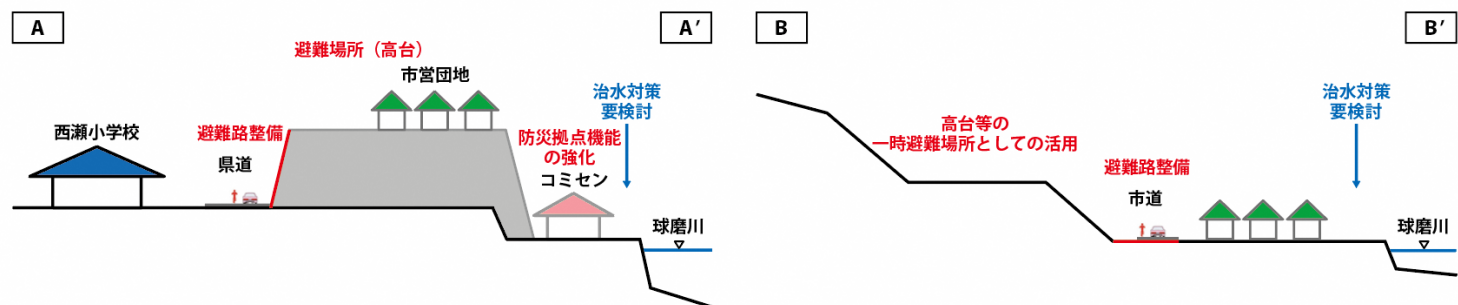
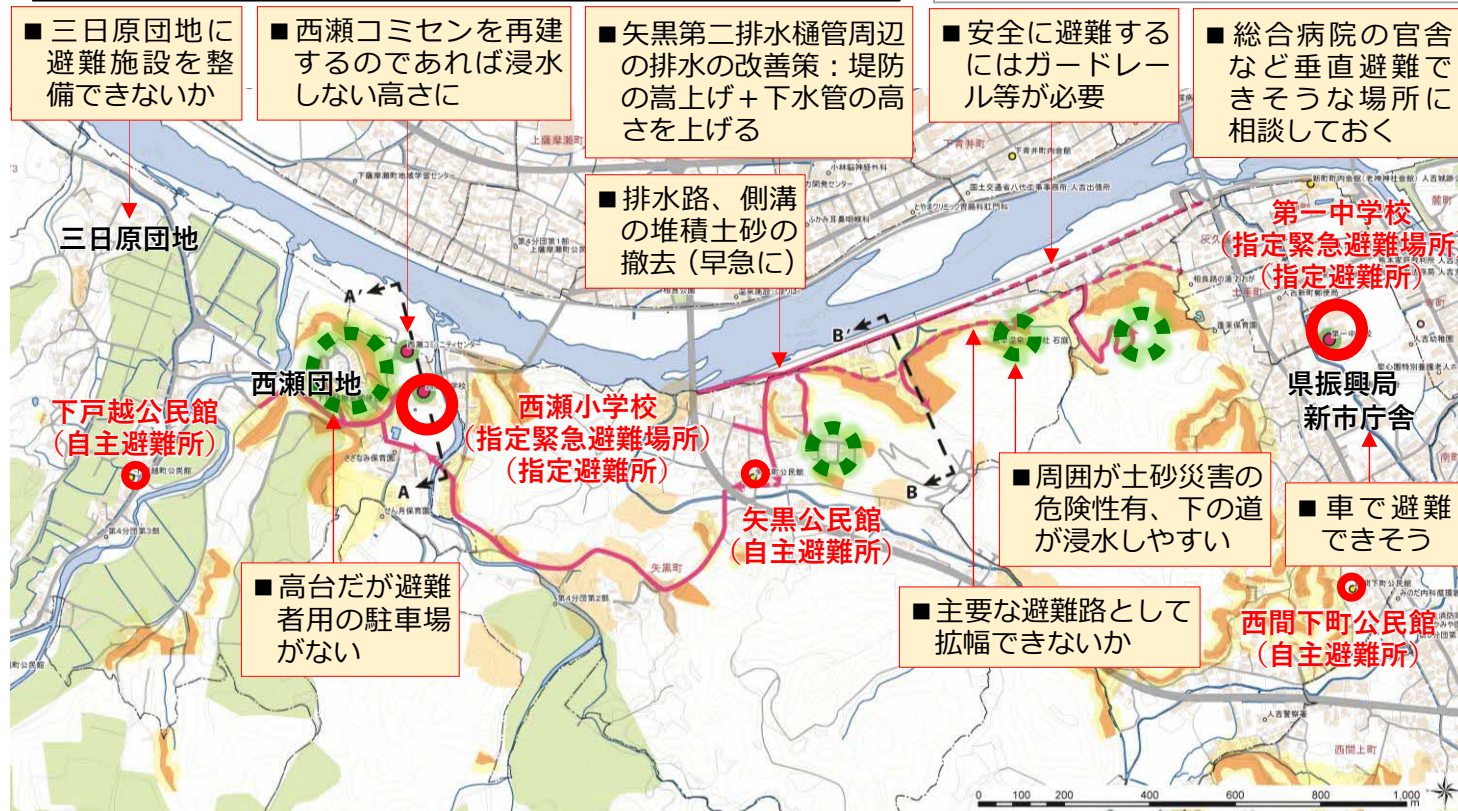
【浸水対策】

- ・矢黒第二排水樋管周辺の浸水対策が必要。改善策として、堤防の高上げと下水管の高さを上げては。

【西瀬コミュニティセンター】

- ・水害時にも避難が可能な場所で、防災まちづくり拠点の機能を持つ施設として再建する。

避難場所・避難所	土砂災害の危険区域
● 指定緊急避難場所	土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
● 指定避難所	土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
○ 自主避難所	地すべり調査予定
○ 福祉避難所	急傾斜地調査予定
○ 避難場所(高台)	土石流調査予定
避難路(案)	その他
— 現況が4m以上	農用地区域
- - - 現況が4m未満	



◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより

Vol.2

左岸地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会(第3回)』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。

左岸地区の**対象地区は、西間下町、矢黒町、下戸越町**です。

◆第3回地区別懇談会

- 1 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明
 - ・地区別懇談会の振り返りと情報提供
 - ・懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向案、イメージ案と参考事例について
- 2 地区ごとの話し合いと全体共有
 - ・復興まちづくりの方向案(課題、取組方針、具体的な取組み案)について
 - ・復興まちづくりのイメージ案について
- 3 今後の進め方と次回日程の調整



6月7日(月)18時半から、西瀬小学校体育館で開催しました。
(参加人数:34名 ※薩摩瀬地区と合同開催)

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただきます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の復興支援課までお問合せください。
多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・7～9月の間に、概ね月1回(3～4回程度)の開催を予定しています。

次回の開催予定: **第4回 7月28日(水) 18時30分より**

次回のテーマ予定: 復興まちづくりの具体的なイメージや手法案について

会場: 西瀬小学校体育館

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域(重点地区)などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・**住民主役の計画づくり(策定主体は主に住民)**に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。(令和3年度からの一部実施も想定)

□は方向案の柱、赤字は事務局側での記載事項です。黄色網掛け箇所が第3回地区別懇談会における参加者の意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

意見集約のキーワード	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体的取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
災害に負けないまちづくり 【避難対策】	□安全な避難ルートの確保 →矢黒の集落内の道が低く、早い時間帯に浸水して通行できなくなるため、孤立化する。（矢黒公民館やま心のある高台へ行くルートが浸水しやすい。ま心のある高台へは裏から歩いて上るしかなく、高齢者には難しい。） □近所の避難体制の構築（「近助」）	□安全な避難路の整備 ・土砂災害の危険区域や浸水しやすい箇所を踏まえた避難路の整備を行う。 →避難路と避難場所とセットで考える必要がある。 □「早めの避難」の徹底 ・避難できる道や方法がある時間帯の「早めの避難」を徹底する。 ・油断を防ぐため、災害の危険性を認識するための手段を整える（事前・発災時）。 □避難体制の構築 ・班などの小さな単位で高台避難する体制づくりや、町内会・自主防災組織・消防団との連絡体制の構築を行う。	□地区内の主要道路の整備 →矢黒町の地域内の道は狭く、皆さんが一度に避難しようとした場合には通れなくなる。道幅を拡げるという選択も考えなければならない。 □堤防道路の避難路としての整備 →避難するための道としては、ガードレールやフェンスがないため危険。 □地域性を踏まえた防災マップの作成 □地域内への実績浸水深の表示（昨年の痕跡水位を電柱等に表示） □情報発信機能の強化（防災ラジオの配布＋支流の出水状況のインフォメーション機能） □避難支援ツールの配備 →西間下町では、地域の高齢者の避難支援や荷物の運搬のため、防災リアカーを用意した。高齢者の中にはペットと一緒にないと避難しないと言う方もおり、リアカーであればペットと一緒に乗ることもできる。 □避難訓練（実際に起こり得る状況を想定した、効果的な避難訓練の実施）
	□緊急時に避難ができる場所の確保 ・指定緊急避難場所まで行けない場合や緊急に避難を要する場合などに、命を守れる避難場所が必要。 →西間下町の避難所は基本的には東間コミセンだが、距離があり、地域の方々も不満に思っている。 →昨年の水害時は避難先が人吉第一中学校に集中し、避難場所も駐車場も満員で入れなかった。被災した場所に戻られた方も多かった。 □ペットの同行避難への対応	□複数の避難場所の確保 ・指定緊急避難場所の他、民間の施設や私有地も含め、水害時の一時避難が可能な避難場所を複数確保する。 →車で避難ができる場所（駐車場）も確保しておく必要がある。 →一箇所に集中しないように、避難先を分散させる工夫も必要。 →避難所として集まる場所も水が引いた時点では必要だが、現状では、一時的な避難として、水が引くまでの1日か2日、いろんな場所に避難せざるを得ないのではないか。 ※避難方法の具体化が必要（時期、ルート、場所、運営面） 【西間下町】垂直避難できそうな場所を具体的に挙げ、管理者と相談する。 【矢黒町】東西にわたって土砂災害の危険性があるため、①早めにエリア外に避難する。②浸水が始まってしまい、今からは逃げられない場合は、最寄りの高台に避難する。 【下戸越町】①早めの時間帯であれば西瀬小学校に避難する。 ②緊急的に垂直避難が必要な場合の避難場所を複数考えておく。 □避難所または自主避難所の運営方法の検討 ・ペットの同行避難の他、避難や避難生活に関する地域のニーズに備え、事前の検討を行う。	□安全な避難場所の確保 【西間下町】西間下町公民館、新市庁舎、県振興局 【矢黒町】矢黒町公民館、石庭の館、ま心周辺の高台、蓬莱配水地 →石庭の館は高台にあるが、周囲は土砂災害の危険性がある。下の道は川から4m程低く、早い時間帯に通れなくなるため、避難場所として利用するのは難しい。 【下戸越町】西瀬団地 →西瀬団地は、避難場所としては駐車場がない（団地居住者分のみで場所がない）。集会所はある。 →市営三日原団地を避難場所として整備してもらうのが良いのではないかな。 ・隣接する町同士で連携する避難体制の構築 →矢黒町から西間下町公民館へ避難して良い旨の話をした。 ・ペットの同行避難の対応 □車での避難場所（駐車場）の確保 →県振興局や新市庁舎の裏の方（弓道場や社会福祉協議会付近）は車を避難させる場所としては便利なのは。 □避難所の混雑状況の可視化 →他自治体ではスマートフォンで避難所の空き状況を確認できるアプリを導入しているところもある。人吉市でも導入できないかな。
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	□球磨川と急傾斜地に挟まれ浸水＋土砂災害の危険性がある →矢黒町は矢黒第二排水樋管のあるところが最初に浸かり、通行不可になる（球磨川本川の水が堤防を越水する前に通れなくなる）。旧道も浸かりやすく、今年5月の大雨でも水がはけ切らず浸かった。	□避難路確保のための急傾斜地対策 ・避難路の安全性を上げるため、急傾斜地対策を行う。 □治水＋排水対策の強化 →矢黒第二排水樋管は球磨川の水で排水できなくなり、水が上がってくる。堤防、道路も低い。改善してもらえれば、かなりの時間通行できるようになる。	□急傾斜地対策 □堤防の嵩上げ＋下水管の高さを上げる →矢黒第二排水樋管周辺の改善策として、堤防の嵩上げと下水管の高さを上げては。 □西瀬コミュニティセンターの防災機能強化 ・西瀬コミュニティセンターを、水害時にも避難が可能な場所で、防災まちづくり拠点の機能を持つ施設として再建する。 →再建する場合は、3階建てくらいにしてもらえると良いのでは。 →避難場所等を新たにつくる場合は、管理についても考える必要がある。

